

2011
活動実績
ダイジェスト

2011 ACTIVITY DIGEST

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

次世代を担う人材育成と
医療科学・技術の創出



Contents

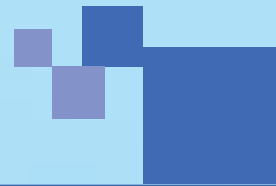
- 滋賀医科大学のこの1年 1
- SUMSプロジェクト 2
- 教育 3
- 研究 5
- 診療 7
- 附属病院リニューアル 9
- 社会貢献 11
- 国際交流 12
- 財務の状況 13
- 業務運営・改善 14

国立大学法人

滋賀医科大学

滋賀医科大学のこの1年

2011/ 4月	<ul style="list-style-type: none">▪ 入学宣誓式、大学院入学宣誓式▪ 全学フォーラム
5月	<ul style="list-style-type: none">▪ 浜松医科大学との交流会（於：浜松医科大学）▪ 滋賀医科大学若手事務職員研修▪ 京都橘学園と教育研究協力に関する包括協定締結▪ 解剖体納骨慰霊法要
6月	<ul style="list-style-type: none">▪ 地域イノベーション戦略支援プログラム（グローバル型）平成23年度研究計画発表会で発表▪ 関連病院長会議
7月	<ul style="list-style-type: none">▪ 男女共同参画推進室を設置▪ 病院モニターズクラブ モニター会議▪ 学外有識者会議▪ 報道機関との懇談会▪ 臨床教育看護師育成プランフォーラム▪ オープンキャンパス（医学科）
8月	<ul style="list-style-type: none">▪ オープンキャンパス（看護学科）▪ 地域「里親」学生支援の宿泊研修
9月	<ul style="list-style-type: none">▪ 国立大学附属病院長会議 医師臨床研修協議会を開催▪ 「イノベーションジャパン2011-大学見本市」に出展▪ 業務改善発表会
10月	<ul style="list-style-type: none">▪ 医学科第2年次後期学士編入学並びに秋季大学院医学系研究科入学宣誓式▪ 解剖体慰霊式▪ 若鮎祭（学園祭）
11月	<ul style="list-style-type: none">▪ 留学生等バス研修旅行▪ 研究動物慰霊式▪ マレーシア国民大学との学術交流協定締結▪ 医学部合同新技術説明会で発表▪ JSTイノベーションフォーラムin滋賀で成果発表
12月	<ul style="list-style-type: none">▪ 全学フォーラム▪ ホスピタルローソンがオープン
2012/ 1月	<ul style="list-style-type: none">▪ 第1回ホームカミングデイ▪ 留学生との交流会「国際交流の夕べ」▪ 滋賀県知事との懇談会▪ 大学を支える人材を育むための宿泊研修
2月	<ul style="list-style-type: none">▪ 分子神経科学研究センター・国際シンポジウム▪ 個別学力試験（前期日程）
3月	<ul style="list-style-type: none">▪ 男女共同参画推進のための講演・シンポジウム▪ 学位授与式、卒業式▪ スチューデント・ドクター認定式▪ 学外有識者会議▪ 地域イノベーション戦略支援プログラム（グローバル型）平成23年度研究成果報告会及び医工連携ニーズ・シーズセッションで成果報告▪ 附属病院再開発工完了



Society-based, Unique, Mindful, and Strategic Medical Service (SUMS) Project 2010-2015

「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」

法人化第二期(2011~2015)の目標をSUMS project 2010-2015「次世代を担う人材育成と医療科学・技術の創出」にまとめました。これは第一期にえられた成果を生かし、さらに充実発展に向けたものであります。

1 地域基盤型教育・研修 (Society-based Education)

地域基盤型教育を推進し、医療福祉の分野で活躍する人材を育成する。

- ①早期体験実習、患者宅訪問授業、模擬患者の会や里親との交流の充実、医学科定員増に対応した設備や学習環境の整備
- ②Science, Arts, Ethics を軸としたカリキュラム編成、基本的知識と最新医学の知見、スキルズラボの活用、医療水準Ⅱの確保と臨床実習の評価基準、継続的な倫理教育
- ③医師・看護師国家試験合格率、各々95%以上、98%以上の達成
- ④任期付教職員の導入による業務の活性化
- ⑤優秀教員の表彰、優秀学生の奨学金給付、学生支援の拡充
- ⑥魅力ある研修プログラムによる総合医、専門医、地域医療支援医師の育成
- ⑦コメディカルスタッフの教育プログラムの推進

2 独創的研究 (Unique Research)

基礎医学と臨床医学との融合による新領域の研究を展開する。

- ①重点研究と独創的各個研究の推進
- ②研究グループの組織化による研究の強化
- ③大学院学生数100%確保、留学生の在学学生数の増加
- ④教職員海外研修や留学生等の支援による国際交流の促進
- ⑤産学連携の推進

3 充実した医療 (Mindful Medical Service)

先進医療と高度医療を推進し、地域医療に貢献する。

- ①先進医療と高度医療の推進
- ②オーダーメイド医療の開発
- ③再生医療への取組
- ④低侵襲医療
- ⑤地域における不可欠な医療分野の強化

4 戦略的組織活性化 (Strategic, activated Service)

組織の活性化で大学の機能を向上する。

- ①教職員のキャリアアップ支援体制
- ②業務の省力化、効率化にむけたボトムアップ体制の強化
- ③積極的な情報公開
- ④男女共同参画社会の実現に向けた具体的取組
- ⑤エコプロジェクトの推進
- ⑥収支バランスの改善によるソフト面の強化

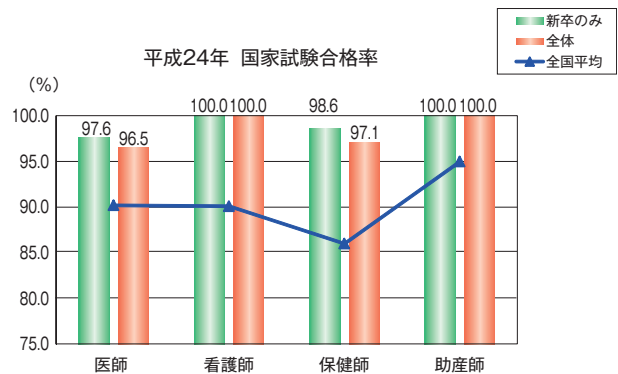
教 育

－ 地域に支えられて医療人育成 －

■ 高い国家試験合格率を維持

アドバイザー制度や補講及び国家試験担当教員の設置などの支援を継続して、平成23年度も高い合格率を維持することができました。中期目標「新規卒業者の合格率」は95%以上を達成しました。

	医 師	看 護 師	保 健 師	助 産 師
新卒のみ	97.6	100.0	98.6	100.0
既 卒	0.0	—	0.0	—
全 体	96.5	100.0	97.1	100.0
全国平均	90.2	90.1	86.0	95.0



■ スチューデント・ドクター制度を導入

共用試験のCBT (Computer Based Testing) とOSCE (Objective Structured Clinical Examination : 客観的臨床能力試験) に合格した医学科第4学年学生95名を、スチューデント・ドクターとして認定しました。

スチューデント・ドクター制度の導入により、認定された学生は、医師を目指す医学生としての自覚や心構え、医療に関わる人間として使命感や責任感を再認識し、学生の知識と技量を大学が保証し、患者さんや地域、病院の協力を得ることにより、さらなる参加型臨床実習の充実が期待できます。

※共用試験とは：臨床実習開始前に全国の医科大学・大学医学部の学生を対象に行われる評価試験、コンピューターを用い知識・問題解決能力を評価するCBTと態度・診察技能を評価するOSCEで構成されています。



■ 研究医特別コースの立ち上げ

病理医や基礎医学の研究医の不足が問題となっています。本学では、将来、研究医を目指す学生の育成の取り組みを開始しました。

1・2年次には入門コース、3・4年次には登録コースを設定し、4年後の大学院進学を支援します。初年度の平成23年度は、研究医特別コースの説明会や基礎医学研究に関する情報提供を行い、現在、2名の学生が解剖学講座での研究を開始しています。

※研究医とは：大学や研究機関などで、主として基礎医学の教育・研究に従事する医師です。

Educational Activity

■ 留学生の大学院進学への支援と秋入学制度

平成22年度から、国際化に対応して秋入学制度を導入するとともに、学術交流協定等を締結した海外の大学から優秀な学生を留学生として受け入れ、生活面の支援と大学院への進学を支援しています。

留学生の内3名が、秋入学等で大学院博士課程に進学し、現在、学位取得に向けて研究を行っています。

平成23年度の秋入学では、博士課程6名、修士課程3名の学生が入学しています。



■ 修士課程「看護管理実践」に大学院教授就任

高度化し激変する医療現場に対応できる看護管理者の教育を行うため、大学院修士課程に「看護管理実践コース」を設置し10月から教育を開始しました。教育を総括するのは、大学院医学系研究科看護学専攻大学院教授となった藤野みづ子附属病院看護部長です。看護管理者として求められる資質や能力、経営的手腕や業務改善のための理論的分析やデータ処理の方法を、現場の経験を通して教授します。

■ NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」を設立

文部科学省の医学生支援事業であった里親支援GPを継続するため、滋賀県及び関係団体と協力のもと、NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」を設立しました。

平成23年度も、宿泊研修などの地域医療を体験・理解する事業を実施し、地域のみなさまとの交流を図りました。

平成23年度末現在の里親支援事業登録者は、医学科64名、看護学科18名の計82名です。

この活動をとおり、一人でも多くの卒業生が滋賀県内で医療に携わってくれることを期待します。



▶ 宿泊研修で地域の皆さんと交流

◀ NPO法人「滋賀医療人育成協力機構」広報誌のキャラクター「メディカルめでのちゃん」



研究

－ 独創的な研究の創成 －

■ 重点プロジェクトの推進と成果

本学の特色を生かした「重点研究プロジェクト」を推進しました。

■ 神経難病研究

アルツハイマー病の診断・治療法の開発の基礎研究に成功し、その成果を、Nature Neuroscienceなどの国際学術誌及び国際アルツハイマー病学会で発表しました。現在、技術の一部を特許申請中です。

また、鼻汁によるアルツハイマー病の体外診断法を開発しました。臨床での応用にむけて、研究を進めています。



■ 総合がん医療推進研究

文部科学省科学研究費補助金・新学術領域研究「がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動」の統括施設の一つとして、肺がんの診断や治療法選択の指標となる3種類の腫瘍マーカーを開発しました。研究成果は、国際学術誌に発表しました。

また、滋賀県の支援を受け研究を進めてきた「がんペプチドワクチン療法」が、厚生労働省科学研究費補助金の医薬品開発事業に採択され、平成24年度から臨床試験を開始することとなりました。

新聞報道では、「患者の希望につながる。」との滋賀県の発表と嘉田由紀子滋賀県知事のコメントが掲載され、22都道府県の患者さんと医療機関から600件以上のがん治療に関わる相談を受けました。

※がんペプチドワクチン療法とは：がん細胞の目印となる特有の「がんペプチド」をワクチンとして作り、患者さんに注射することにより、がん細胞を攻撃する免疫細胞を増殖させ、がん細胞を殺す力を高める治療法です。

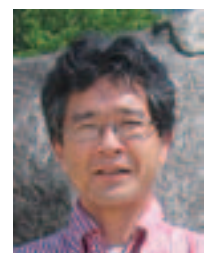
■ 平成23年度 優秀研究者の表彰

研究活動の支援・点検・評価を目的とする研究活動推進室では、毎年、学内の研究について成果を評価し、優秀研究者を選定して表彰を行っています。

■ 平成23年度の優秀研究者：小松直樹（生命科学講座（化学）准教授）

ナノダイヤモンド（微小なダイヤモンド粒子）によるイメージング・プローブを用いて生体内のがん細胞の検知に成功し、新たながん治療の道を拓いたことが、学術的意義の高い研究業績として評価されました。

※イメージング・プローブとは：生体内の細胞や分子を可視化するための標識剤です。



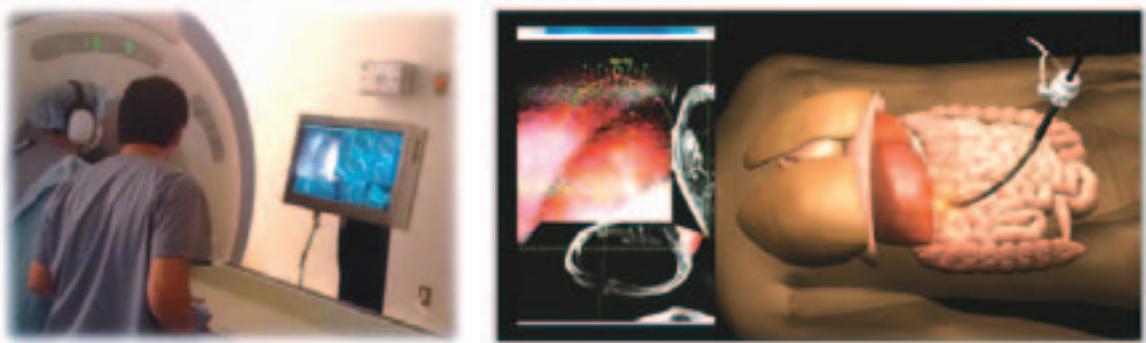
小松直樹
（生命科学講座（化学）
准教授）

Research Activity

■ 次世代手術システムの開発

A-STEP研究成果最適展開支援事業に採択され、「汎用MRを使う生体内部構造透視画像下内視鏡手術システムの開発」を行っています。放射線被曝の無いMRI装置を術中モニターとし、マイクロ波手術デバイスと軟性導体（内視鏡）、位置センサーにより手術器具の位置をモニタリングしながら低侵襲で安全に手術が施行できるシステムを開発しています。

また、地域イノベーション戦略支援プログラムでは「体腔鏡手術ロボティック技術が拓く高度先端医療の研究開発」に取り組み、「イノベーションジャパン2011」や「MEDICA2011」に出展し、実用化を目指しています。



次世代MR画像誘導下内視鏡手術

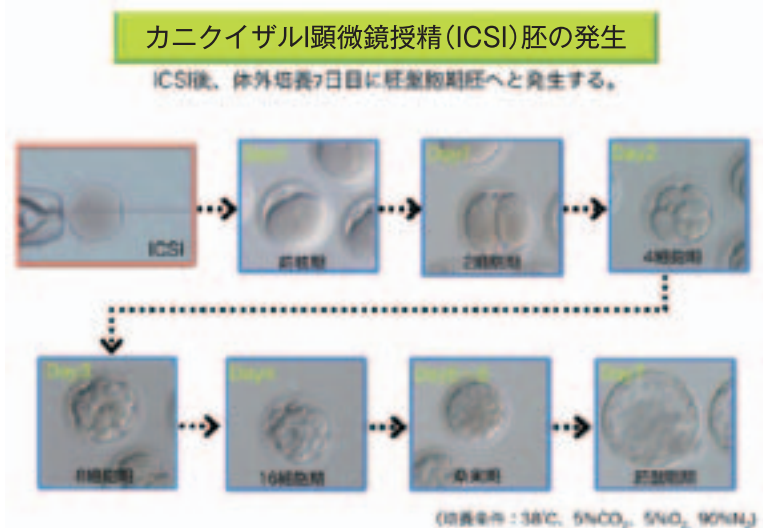
■ カニクイザルを用いたエピゲノムの研究

(独)科学技術振興機構の戦略的創造研究推進事業におけるプログラムであるERATO (Exploratory Research of Advanced Technology) 事業のもと、カニクイザルを用いた全能的エピゲノム研究に参加することとなりました。ヒトの受精卵から発生にいたるまでの初期胚発生のメカニズム、また生殖細胞だけが持つ全能性に関わる遺伝的背景には不明な点が多くあります。しかし、ヒトの胚を実験的に利用することは倫理的に不可能であるため、本研究では、ヒトと近縁な動物種であるカニクイザルの初期胚を用いてヒトへの外挿を試みます。様々なステージの初期胚の詳細な発生過程と、各ステージに発現する遺伝子群とそのエピジェネティックな背景について、研究していく予定です。

本学はカニクイザル研究に特化した動物実験施設を持ち、かつカニクイザルの胚操作の先進的技術を持っています。この研究にカニクイザルを用いることで、マウスなどのげっ歯類では実証不可能な、ヒトの全能性エピゲノム情報を間接的に解明することができます。

※ERATO事業とは：厳しい審査を経て1年に4～5件しか採択されないもので、日本の科学技術の将来を見据えた研究を行う大型プロジェクトです。

※エピゲノムとは：人間の体を構成する細胞DNA情報が、メチル化やヒストン・アセチル化などで修飾を受けることです。

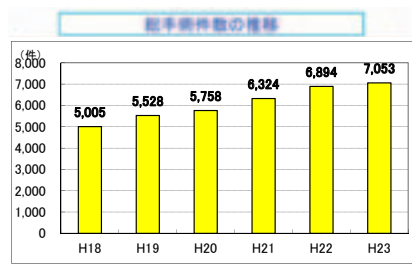


診療

－ 地域中核病院としての取り組み －

■ 手術症例及び救急医療等への対応

- 病院再開発が完了し、新旧の14手術室の運用を開始しました。
時間外手術や緊急手術への迅速な対応が可能となり、総手術件数が増加しました（H23年度：7,053件、H22年度：6,894件）。
- 救急車搬送件数は、2・3次救急が増加しています。特に、救急搬送された心臓血管外科症例に対しては、超緊急手術として対応し、成果を上げています。



■ 本院の特徴となる低侵襲な高度医療の実績

本院の特徴的な医療として、低侵襲で高度な医療を実施しています。平成23年度の実績は以下のとおりでした。

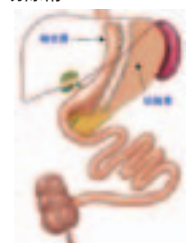
オフポンプの心臓手術（オフポンプ：人工心肺装置を使用せず、心臓が動いたまま手術を行う方法）	101件
心臓カテーテル法を用いた不整脈治療	188件
脳下垂体部病変に対する内視鏡手術	14件
グリオーマに対する機能温存手術（グリオーマ：脳の神経細胞の周りに存在し神経細胞の働きを助ける神経膠（しんけいこう）細胞から発生した腫瘍）	5件
脳動脈瘤に対する血管内手術（血管内手術：血管の中から治療を行なう比較的新しい治療法、開頭術せずに治療行うことができる）	21件
スモールゲージ硝子体手術（スモールゲージ硝子体手術：従来よりも小さい傷口(0.5mm)から眼内の手術を行う方法。手術時間の短縮、手術後の異物感の軽減や外観の早期回復が期待できる。）	361件
内視鏡を用いた消化器癌や止血の治療	1,068件
椎間板性腰痛に対する高周波熱凝固法（椎間板に入り込んだ神経を高周波熱凝固で変性させ、疼痛の軽減を図る治療）	12件
難治性疼痛患者に対するRACZカテーテル治療（RACZカテーテル治療：RACZカテーテルという特殊なカテーテルとを使用し、くっついた神経と周辺組織をはがしながら、神経根部を治療する方法）	2件

■ 最適な治療を行うためのオーダーメイド医療の提供

- 遺伝性不整脈に対し、遺伝子診断を行い、個々の患者さんにあった治療方針を決定しています。これにより、心臓突然死の予知・予防が可能となります。
- 糖尿病発症に関わる遺伝子の発見や糖尿病治療薬に対する薬剤感受性遺伝子の研究を行い、オーダーメイド医療の実現を目指しています。
- 病的肥満症に対する減量手術（腹腔鏡下スリーブ状胃切除術）を開始しました。減量手術は、病的肥満症に対する治療の中で唯一長期的な効果が証明されています。平成23年度は6例の手術を実施しました。
- 平成24年度から、臨床遺伝専門医による「臨床遺伝相談科」を設置し、カウンセリングを開始しました。

※オーダーメイド医療とは：個々人の個性にかなっただ医療を行うこと。DNA配列などによる大量の情報取得技術の発達により、患者さん個人個人に最適な治療方法を計画することが可能となりました。

腹腔鏡下スリーブ状胃切除術



Clinical Activity

■ 電子カルテの導入

電子カルテが2010年7月から導入されました。約1年間は紙カルテと併用して、現在漸次大部分は電子カルテのみで運用されています。電子カルテの愛称は、Nihoで、琵琶湖のかいつぶりの古い呼び名です。

滋賀医科大学附属病院電子カルテの特徴：富士通株式会社のシステム（HOPE/EGMAIN-GX）に、独自の特徴を追加し、医療スタッフが使いやすく、また誤りを防ぐ、多くの工夫を取り入れました。

- 1) 薬剤・検査・処置等の指示方法を統一し、誤りをなくす工夫をしました。
- 2) 外来での処方誤りをなくす工夫をしました。
- 3) 多様な証明書の様式を取り込み、医師が記入しやすくしました。
- 4) 情報の二重化により、セキュリティーを強化しました。
- 5) 他院からの医療データを取り込み、参考にします。



■ 患者支援センターの機能を強化し患者サービスを充実

患者支援センターの移転に合わせて、MSWの増員や受付業務人員を配置し、機能を強化しました。入院前支援においては、対象診療科を拡大し、前年度実績から大幅に増加した1,197名（前年度489名）の入院前支援を行い、持参薬チェック等の安全管理体制が推進できました。退院支援業務も1,526件（前年度1,184件）と大幅に拡大でき、ベッドコントロール会議の活動と合わせて病床稼働率や逆紹介率の向上に貢献しました。また、生活保護申請の援助により、未収金発生防止や平成24年1月より外来予約変更業務も開始し、患者サービスの向上を図りました。

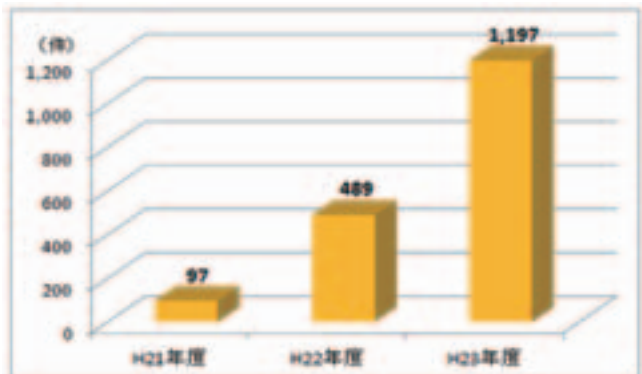


入院支援室

紹介患者受診状況・紹介率・逆紹介率の推移



入院前相談業務



附属病院リニューアル

平成17年にスタートした附属病院の再開発工事は、平成24年3月末で完了し、明るく機能的にリニューアルしました。

■ 再開発後の病院

■ 機能集約型病院

各診療科の専門家が、議論を重ねた上で、最短で最適な医療が行われる体制を構築しました。

■ 地域密着型病院

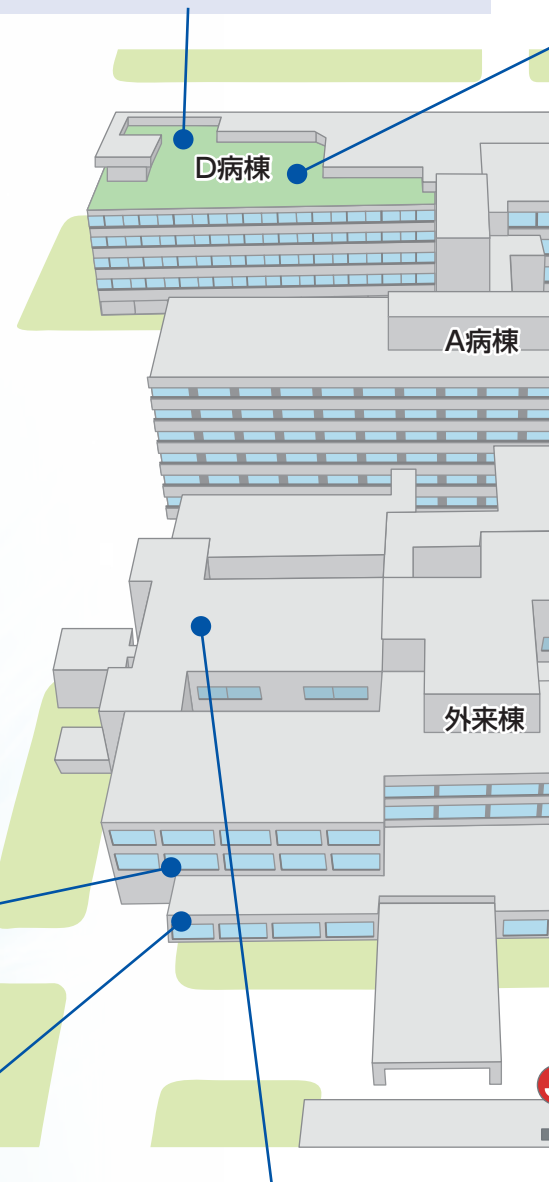
地域に密着した病院づくりを実現するため、救急医療体制を整備し、教育研修機能を充実させました。

■ 医療安全推進病院

安全対策、危機管理対策を強化し、患者さんの安全確保に万全を期します。



■ 屋上庭園：琵琶湖が見渡せます。



■ 患者支援センター：予約センター、入院前の支援などの機能を充実しました。



■ タリーズコーヒー：一息つける空間が増えました。



■ 外来受付：開放的なオープンカウンターとなりました。

Hospital Renewal



■ 病棟: プライバシーを確保し療養環境が向上しました。



■ 手術室: 14室となり、救急部と直結し、緊急手術に迅速な対応が可能となりました。



■ 検査部: 受付が自動化され流れがスムーズになりました。



■ コンビニ: ATM、宅配便取次などのサービスが充実し、大変便利になりました。



■ 玄関ロビー: 明るく開放的なスペースとなりました。



■ ライトコート淡海: 憩いの場としてご利用ください。

社会貢献

Community Relations

－社会にオープンスタンス－

■ 東日本大震災への支援活動

平成23年3月11日に発生した東日本大震災においては、発生翌日のDMAT派遣に続き、滋賀県及び全国国立大学附属病院長会議の要請を受けて、福島県、宮城県、岩手県に延べ60名の支援チームを派遣しました。



診察の様子



派遣職員 出発の様子



放射線量測定の様子



東日本大震災で犠牲になられた方々の鎮魂のため1年前植樹した蜂須賀桜が、この春、可憐な花を咲かせました。

■ 東近江医療圏における地域医療再生への支援

滋賀県地域医療再生計画に基づく東近江総合医療センター開設（平成25年開設）を目指し、国立病院機構滋賀病院内に総合内科学講座と総合外科学講座を設置、10名の医師を派遣して診療を開始しました。

これにより、国立病院機構滋賀病院では、消化器内科、消化器外科、糖尿病内科、呼吸器内科、救急科、循環器内科、整形外科に常勤医師が配置され、120床であった病床が160床に回復しました。

さらに、小児科医の増員、婦人科の開設など、小児科領域・産婦人科領域の診療が充実し、外来患者数、入院患者数、手術件数が増加する一方、在院日数が短縮されました。

救急患者に対しても、内科系疾患・外科系疾患ともに、24時間体制で対応しています。

平成24年度からは、滋賀医科大学の学生の臨床実習を受け入れ、教育病院としての役割を果たすこととなっています。

■ 地域の医療水準向上のための開放型基礎医学教育センターの構築

滋賀県内の医療系教育施設の医学教育の水準を向上させるため、また、県民の皆様には開放できるメディカル・ミュージアムとしての機能をもった「開放型基礎医学教育センター」の構築を進めています。平成23年度は、約1,000症例の人体臓器標本等を作成しました。

これらの標本は、学内・学外での学生実習、小学校への出前授業、高大連携事業、オープンキャンパス等で活用しています。学外の看護及び医療系教育機関の学生約700人には、セミナー形式の実習を行い、好評を得ています。

国際交流 International Exchange

－世界にオープンスタンス－

■ SUMSプロジェクトによる留学生受け入れ

SUMSプロジェクトでは、教職員海外研修や留学生の支援により国際交流の促進を図っています。

留学生は、本学協定校からの応募者に対し選考を行い、毎年3名程度を受け入れています。留学期間中は、経済的支援と本学大学院進学のための支援を行っています。

平成23年度は、5大学等から16名の応募があり、選考の結果、以下の協定校から4名の留学生を受け入れました。

氏名	出身大学等	本学の研究講座等	研修期間
関宏鵬 (Guan Hongpeng)	哈爾濱医科大学	分子神経科学研究センター	H24. 1. 1～H24.12.31
Phung Manh Thang	チョー・ライ病院	総合がん治療学講座	H23.11.21～H24.11.20
劉 楊 (Liu Yang)	北華大学	内科学講座 (糖尿病内分泌)	H23.12. 1～H24.11.30
Maryam Zaid	オタワ大学	社会医学講座 (公衆衛生学)	H23.11.22～H24.11.21

■ マレーシア国民大学と学術交流協定を締結

平成23年11月、マレーシア国民大学と学術交流に関する協定を締結しました。

調印式に先立ち、大学紹介を兼ねたプレゼンテーションを行いました。

また、本学の動物生命科学研究センター、MR医学総合研究センター、分子神経科学研究センター及び附属病院を見学し、種々の交流を通じて友好を深めました。

今後は、この交流協定のもとに両校の交流が活発に行われ、教育、研究、診療が発展することが期待されます。

本学のアジアの協定校は、中国の5カ所、ベトナムの2カ所と今回のマレーシア国民大学とで、8カ所となりました。



調印式



病院を見学



スキルズラボを見学

■ 国際シンポジウムの開催

平成24年2月13日、「New insights into the treatment of neurological diseases」というテーマで国際シンポジウムを開催しました。

学術交流協定校であるカナダ・オタワ大学のカナダ国立医学研究所のJoseph S Tauskela先生を始め、本学の楊宏寛先生、国立病院機構鳥取医療センターの小西吉裕先生、アメリカ・Sun Health Research InstituteのThomas G Beach先生から、ご講演いただき、活発な討議が行われ、盛会なシンポジウムとなりました。

財務の状況

Finance

貸借対照表の資産の部において、本学が保有する総資産は、前年度と比較すると47,244百万円から48,494百万円へと増加しています。主な増加資産は附属病院の中央診療棟および外来棟改修による建物、および現金・預金等の流動資産です。工具器具備品については、新たに医療機器等を購入致しましたが、それ以上に減価償却費が増加し、結果として本資産は減少致しました。一方、負債総額も30,107百万円から31,443百万円へと増加していますが、これは病院再開発に伴う借入れによるものであり今後の債務償還額が増加していることを示しています。

【貸借対照表】

(単位：百万円)

資 産 の 部			
	①平成22年度	②平成23年度	増減②-①
I 固定資産	38,078	37,713	△ 365
1. 有形固定資産	37,445	37,279	△ 166
土地	10,163	10,163	0
建物及び構築物	17,692	18,482	790
工具器具備品	7,612	7,069	△ 543
図書	1,516	1,528	12
その他の有形固定資産	462	37	△ 426
2. 無形固定資産	27	29	2
3. 投資その他の資産	606	405	△ 202
II 流動資産	9,165	10,780	1,615
現金及び預金	5,133	6,288	1,155
未収附属病院収入	3,383	3,875	492
有価証券	200	200	0
たな卸資産	364	315	△ 49
その他の流動資産	85	102	17
資産合計	47,244	48,494	1,250

※百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計額と一致しないことがあります。

(単位：百万円)

負 債 の 部			
	①平成22年度	②平成23年度	増減②-①
I 固定負債	22,073	22,904	831
資産見返負債	3,445	3,863	418
長期借入金	16,557	17,354	797
退職手当引当金	105	146	41
長期リース債務	1,906	1,484	△ 422
資産除去債務	56	57	1
その他の固定負債	4	—	△ 4
II 流動負債	8,034	8,538	504
運営費交付金債務	128	290	162
寄附金債務	1,330	1,394	64
前受委託研究費等	243	173	△ 70
一年以内返済長期借入金	952	1,129	177
未払金	3,963	4,081	118
賞与引当金	243	263	20
リース債務	749	744	△ 5
その他の流動負債	426	465	39
負債の合計	30,107	31,443	1,335

純資産の部

	①平成22年度	②平成23年度	増減②-①
I 資本金	14,100	14,100	0
II 資本剰余金	2,679	2,546	△ 133
III 利益剰余金	358	405	47
目的積立金	—	—	—
積立金（前中期目標期間）	653	358	△ 295
当期末処分利益(損失)	△ 295	47	342
純資産合計	17,137	17,051	△ 86

負債・純資産 合計 47,244 48,494 1,250

損益計算書について、前年度と比較すると経常収益は24,403百万円から26,334百万円へと増加しています。これは、附属病院収益が1,713百万円の増となっている他、受託研究等収益、寄附金収益および雑益も増加しています。経常費用は、24,695百万円から26,260百万円に増加しています。内訳をみると診療経費の増が1,121百万円、人件費の増が292百万円となっています。結果として経常費用の増加（1,565百万円）を経常収益の伸び（1,930百万円）が大幅に上回っているため、経営が好転し、当期総利益は47百万円となりました。

【損益計算書】

(単位：百万円)

経 常 費 用			
	①平成22年度	②平成23年度	増減②-①
業務費	21,070	22,472	1,402
教育経費	396	376	△ 20
研究経費	742	706	△ 37
診療経費	8,741	9,862	1,121
教育研究支援経費	94	94	0
受託研究事業費	440	485	45
人件費	10,656	10,948	292
一般管理費	496	463	△ 33
財務費用	332	331	△ 2
減価償却費	2,797	2,995	197
合 計	24,695	26,260	1,565

※百万円未満を四捨五入して表示しているため、合計額と一致しないことがあります。

(単位：百万円)

経 常 収 益			
	①平成22年度	②平成23年度	増減②-①
運営費交付金収益	5,255	5,336	80
学生納付金収益	610	589	△ 21
附属病院収益	16,560	18,273	1,713
受託研究等収益	617	667	50
寄附金収益	507	547	41
施設費収益	11	42	31
補助金等収益	220	160	△ 61
財務収益	14	11	△ 2
雑益	198	253	55
資産見返負債戻入	411	455	44
合 計	24,403	26,334	1,930

	①平成22年度	②平成23年度	増減②-①
経常利益（経常損失）	△ 292	74	366
臨時損失	10	30	20
臨時利益	7	4	△ 3
当期総利益	△ 295	47	342

業務運営・改善

Business Improvement

■ 人材育成 若手事務職員への研修

平成23年5月、35歳以下または平成15年度以降に採用された事務部門職員26名が参加して、滋賀医科大学若手事務職員研修が実施されました。
本研修は、宿泊研修とすることで、若手事務職員同志の一体感を培うとともに、目指すべき職員像について考え、やりがいを持って仕事に取り組む意識発揚の機会として実施したものです。
学内・学外講師の講演の他、班別の企画・立案研修では、活発な意見が飛び交い、企画力やプレゼンテーション手法の習得など有意義な研修となりました。



班別の企画・立案研修

■ 業務改善の取り組み



コンサルタントによるヒヤリング

外部コンサルタントを導入し、業務改善及びIT化推進のための作業を開始しました。
事務部門の全係長・課長補佐を対象としたヒヤリングにより、業務の点検・課題の抽出を行いました。業務量・特性・プロセスの可視化を行い、定型業務への負担を減らし、年々増加傾向にある非定型業務への迅速な対応ができることを目指しています。
また、改善対象となる部署の職員には、改善の手法やスキル、問題解決力の向上につながる研修を実施し、業務改善を図ると共に、継続的な改善を実施していくためのリーダーを育成していきます。

■ 男女共同参画の推進

平成23年度に滋賀医科大学男女共同参画推進室を設置して、ホームページによる情報発信を開始しました。
また、学内女性のためのネットワーク（SUMSなでしこネット）を立ち上げ、情報交換やニーズを把握する場を設けています。さらに、全学フォーラムにおいても男女共同参画をテーマとして討議しました。その結果、保育所充実についての要望を受けて、平成24年度には、低年齢児の受入増、全土曜日の開所、病児保育、園庭の拡張を実施することとしました。

滋賀県から「女性研究者等支援事業」の委託を受け、県内女性研究者の情報交換の場としてのネットワークの構築、理工系女子や県民を対象とした講演会やシンポジウムの開催を実施しました。



全学フォーラムで講演の梅田先生（左）と村上先生（右）



本学卒業生の女性研究者等による講演会

安全安心な食材、地産地消(滋賀県産食材)、スローフード(地域に根ざす、
風土の味わい、伝統的食材)、健康を意識できる素材を使用して、滋賀医科大学
オリジナルスイーツを開発しました。

- 滋賀県産発芽大豆のパウンドケーキは、動物性脂肪を使用しておりません。
- 甘さ・脂肪分をひかえ、1個80キロカロリー(1単位)、タンパク質・食物繊維も豊富なヘルシースイーツです。

滋賀医科大学附属病院内ローソンで販売しております。



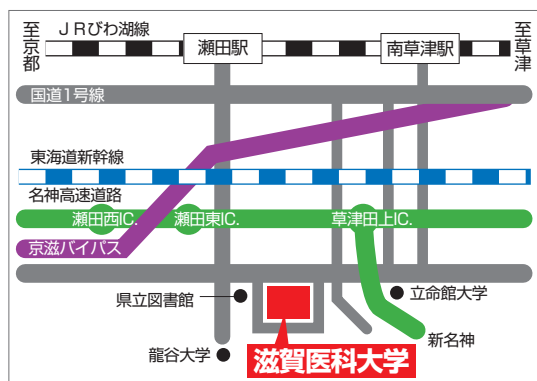
(1箱 840円)



(1個 150円)



<http://www.shiga-med.ac.jp/>



- JR瀬田駅から「滋賀医大」行きバスで約15分
「医大西門前」又は「大学病院前」下車
- 名神高速道路「草津田上IC」から約5分

ご意見等の
連絡先

滋賀医科大学 企画調整室

T E L ● 077-548-2011
E-mail ● hqkikaku@belle.shiga-med.ac.jp
住 所 ● 〒520-2192 大津市瀬田月輪町